

第75号

2021年3月
認定特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX 022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1 郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp <https://www.muginokai-koppe.com>

目次	東日本大震災から10年	飯嶋 茂	・・・ 1p
	研修会に参加して	松本 祐一	・・・ 3p
	東日本大震災から10年～現地見学会～	永野 隆文	・・・ 7p
	新聞記事より		・・・ 11p
	けんちゃんのつれづれ日記 その3	木村 賢一	・・・ 12p
	コッペのパン	佐藤 みこ	・・・ 13p
	自己紹介	齋藤 基	・・・ 14p
	在宅ワーク中です	神品 暖子	・・・ 15p
	生活と家庭	阿部 央希	・・・ 16p

東日本大震災から10年

飯嶋 茂

あの日から10年。長いようなあつという間のような、10年と言われても不思議な感じです。今思うのは、伝えることの大切さと難しさです。

1月末、熊本・大阪・滋賀からのお客さんを石巻・女川・仙台の荒浜を案内しました。

南浜つなぐ館では語り部の方、大川小ではご遺族の方から、直接お話も伺いました。共にまだ整備の途中です。語りつくせない思いと同時に、その語り口からは整備のされ方、残し方が必ずしも当事者の方々の思いとはあっていない部分もあることが感じとれました。門脇小学校は全体が保存されず、大川小は建物を保存するための十分な環境は整備もなされてはいないとのお話でした。

そこには街があり、人々の生活があったことを忘れてほしくない、そういう思いを強調されていて、本当にその通りと改めて感じました。

大川小では多くの子どもたちが犠牲になりました。学校裏の崖は登るのには険しいとされ、先生たちは難しい判断をしなければならなかったと報道されることが多いのです。でも、現地に行って聞くとそんなことはありません。裏山に続くなだらかな斜面があります。郊外学習でも利用していたそうです。そこに避難すれば十分津波からは逃げることはできたはずでした。地震の際、どのように行動すべきかがきちんと共有されておらず、結果として判断が遅れ、しかも間違った判断がされ、多くの犠牲を出してしまったのです。

コッペも偉そうなことはいえません。地震がおきたらどうするかなど当時は議論すらしていませんでした。揺れが収まり、物はもちろん散乱したけど、けが人はなく、建物も大丈夫そう。みんなをどう家族に引き渡すか？周辺の道路はあっというまに渋滞してきていました。送っていくべきか、コッペにいるべきか？正直迷いました。近い人は送った人もいましたが、遠い人は送ることはあきらめ待つことにしました。最後の人を引き渡したのは9時頃だったでしょうか。

今のコッペの決め事は以下の通りです。

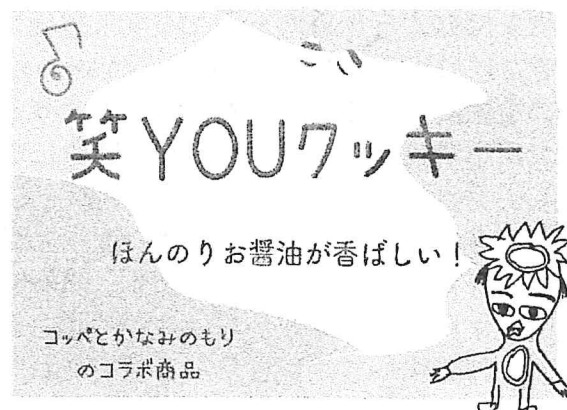
- ① コッペの建物が無事の時は、コッペから動かない
- ② 配達・販売で外に出ていた時も基本コッペに戻る。途中で家に送れるときは送る。
- ③ コッペの建物が危険と判断した時は、東仙台中学校へ行く
その旨の張り紙をするのを忘れずに
- ④ 家族の方が迎えに来るのを待つ
2日目以降は、状況を見て判断する
- ⑤ スタッフは、宿泊も対応する
折りを見て、交代で自宅の確認もできたらする
- ⑥ 食料は、コッペのパン、クッキーで対応する…水は、備蓄する
- ⑦ 通勤時に被災する時もあるので、連絡先を記載したものを持たせておいてもらう
- ⑧ 車のガソリンは、半分を切ったら、給油する
マニュアルともいえないものですが、決め事があるだけでも違います。少なくとも①があるだけで、当時の悩みは解消します。

2020年はコロナという「災害」におそわれた年でした。何よりの被害は、会うことが出来なくなったことと思います。

ZOOMとかラインとか使うのだけれど、私はやっぱり会いたいです。そこに行って感じることを、そこで会ってお話を聞くこと。今回3人の方に遠方より来ていただいてやっぱり良かった。

私も出かけなくては！

新商品のご案内
笑YOUクッキー
(しょうゆ)
登米市のNPO法人奏海の杜(かなみのもり)に通う子どもさんが書いたかっぱの絵が印象的です。
お試しを！



東日本大震災から10年 石巻不修会に参加して

松本 祐一

今年度 2021年度 こちらこそ ようしくお原頁い致
 します。

1/2(土) 及び 1/4(日) の日 旧 東日本大震災
 から10年 石巻不修会 で 石巻市 と 女川町 に 行きま
 した。

1/2(土) 旧日 石巻市 及び 女川町 に行きまし
 た。震災時の石巻市の様子を見学し、
 当時の写真や、震災当時の様子や、
 女川町の様子など、貴重な写真や資料
 にも、貴重な資料もありました。

2ヶ所目は(株式会社) 京大労 B型 きゅうぎや
 事業所が、見学させていただきました。
 1/2(土) 及び 1/4(日) の日 旧 東日本大震災
 から10年 石巻不修会 で 石巻市 と 女川町 に 行きま
 した。震災時の石巻市の様子を見学し、
 当時の写真や、震災当時の様子や、
 女川町の様子など、貴重な写真や資料
 にも、貴重な資料もありました。

3ヶ所目は南浜の食官の見学に行きま
 した。見学先は、震災当時の様子や、
 震災当時の様子や、震災当時の様子
 など、貴重な資料もありました。

— NO.1 —

はむくだんさがあり歩くのにも大変でした。
がんば「ろう」石巻のかんばん(大さかんばん)
が「あり」まだ「普通」事「中」ありました。
「かんば」に石巻市立かどのあま小学木女のひさし
工場所もありました。

次に女川町にいざう至りました。

1ヶ所目は旧女川町交番ひがりについで見学
致しました。
たてものについではつなみによて大きなたな
あさくいのひがりのたてものについではひさし
致しました。

2ヶ所目は女川シーパルレピタ店内(きらび女川)
のきらび店見学致しました。事業所せつめいに
きらび女川管主者沼田さんの専門所せつめいに
ついでに、あかめのしよくもよかんを思いました。
ついでに、かかんとうとクッキーの店についで買いたよん
クッキーのクッキー-たみは1000円で買うことが出来
ました。
きらび女川の本体事業所のせいぞろい見学
を最後に一日目をあえることが出来ました。

宮城県石巻市

避難所に張り出した
手書きの壁新聞等を展示。

石巻ニューゼ



〒986-0822 宮城県石巻市中央二丁目8-2 ホシノボックスピア1F
TEL 0225-98-7323
hibishinbun.com/newsee/

~ NO.2 ~

1/24(日)の日は東日本大震災大きがひ
 がたいが、ある大津なみけいほを大川
 小学校の見学いたしました。
 担当者から長時間のせつりもふくめて高台
 にのぼったときはここがそにかなり大変でした
 木交舎にふいてもかなりのひがたいがあり
 けんざい工事のかしよがあまりして再来月まで
 に見学の出来るしかな館等にふいて分かりまし
 た。見学上場所にふいては交通スツであります。
 他には小学校での修学旅行での見学も何件
 がありました。東北ブロック石巻修会でも再度見
 学致したいと思ひました。

最後に仙台市荒浜小学校の見学致しま
 した。車中のエレベーターもあり見学にふいてもへんり
 で、もけいでも見学致しまひがたいあるを
 社会福祉はんまじかの障害福祉サービス事業
 所も荒浜小学校のよかりの事業所もなごもの
 せみかいでいけん見学したけいけんもありました。
 松本ネーと致しましては初めこの見学で
 けいけんすることが出来、時計にふいては15分
 間でストップしている時にふみか乗る時間
 でした。

宮城県石巻市

VRグラスやドローン映像を
 活用し震災の実情を伝える。



東日本大震災
 メモリアル
 南浜つなぐ館

TEL 986-0835 宮城県石巻市南浜町3丁目1-24
 TEL 0225-98-3691
311support.com/spot/tsunami_museum

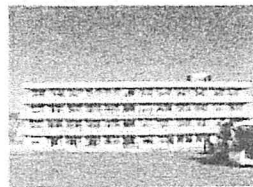
-NO.3-

その他、右一と至女しましては3/11の東日本大
 本さ日まは大山寺市岩出山ませ区障害者
 団員会大集会のがいと回りの列車し帰りの列
 車内)にいました。スップしたために22:00まで
 その日ま点でスップしたために22:00まで
 時間かげことほで古川つかのめ馬尺かひ木公山
 までちもスップとほでいとう至女しました。
 全国社会百事業うん共同連団体大阪府、
 ち算等かよそれぞれけい左りTELはねん以
 ありまし左がうじまんでした。
 電金かかりました。間もかかり3/18早朝月
 の4年之月にはひさいせせローみせぎ大山崎
 市会上場でのえうえんもけいけん致しました。
 この期間ありがとうございました。
 引きつぎよろしくお原貞い致します。

宮城県仙台市

児童や教職員、地域住民
 320人が避難。

震災遺構仙台市立
 荒浜小学校



〒984-0033 宮城県仙台市若林区荒浜字新堀端32-1
 TEL 022-355-8517
www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/rui/arahama_elementaryschool.html

21・23・20 の情報は、「3.11 伝承ロード」の
 パンフレットより引用させていただきます

東日本大震災から10年～現地見学会～

企業組合エコネットみなまた 永野隆文

あの日からもうすぐ10年。「もう」でもあり「まだ」でもある時間。変わったこと・変わらな
いこと。なくなったこと・うまれたこと。ほんの一部ではありますが、現地を見て聞いて知る
ことを通して、全国のみなさんとあの日を、それに続く人々の営みを、そして今を共有す
る機会になればいいなと思います。

あの時駆けつけてくださったみなさんも、正直あまりよくわからないというみなさんも、ど
うぞ宮城へ来てけさいん(きてください)

コロナ禍の中、敢えて行かなくてもいいのに、この時期にわざわざということをする人
がいるかもしれない、と思いつつ。現地で考えること、自分に課すべきこと、上手く説明
できないけど、突き動かされるものがあり、決して忘れてはいけない場所、震災から10
年目の今だからこそ行かねばならないという思いだった。1月22日16時、仙台空港行
を待つ福岡空港にて、石巻や大川小学校の資料に目を通す。被害の大きさに改めて
涙。胸が苦しい！

2021年1月23日(土)13:00 石巻駅集合に集合。

石巻ニューゼ

石巻日日新聞社は、震災直後から「電気がなくとも、紙とペンはある」と手書きの新聞
発行を始めた。創刊99年の新聞発行が危機に立たされる中、最前線で取材を繰り広
げた記者たちの姿や、情報のない中で被災した方たちが群がって壁新聞を見る姿を想
像し、感動に震えた。涙が出た。きっと多くの人を励まし続けたに違いない。東日本大
震災後7日間の記録として、角川SSC新書から「6枚の壁新聞」という本が出版されて
いる。水俣に帰ってきてから読んだが、改めて記者たちの行動に敬意を表したい。

B型事業所きゅう

所長の北村さんに商品などを紹介していただいた。鹿の皮のアクセサリーが珍しかっ
た。コーヒーが好きなので、きゅうで焙煎したものを購入し、飲んでいる。私の好きな味
だ。

震災伝承スペース南浜つなぐ館

6.9の津波にさらわれた1885世帯の街に、震災1か月後に建てられた看板「が
んばろう！石巻」がまず目に入った。南浜つなぐ館の展示には、南海トラフ地震での死
者総定数は323,000人とあり、いのちを守る行動につなげる大切さを訴えている。予想
される自然災害と、人間の開発行為が作り出した災害が合わさる可能性は大いにある。
原発事故との複合災害もある。災害現地に立ってみて、話を聞いて初めてわかったこと

が、いかに多いか。避難経路、避難方法(歩くのか走るのか、車か。障害者はその時どうするのか。)町が丸ごとなくなってしまうということは、現地を見ることで、より深刻さを増し自分の胸に迫る。想像すると押しつぶされそうになるが、叫び声や怒鳴り声も聞こえてきそう。もしその場に自分がいたなら、どう行動していたのだろうか。人は利己的になるという話が印象に残る。旧門脇小学校校舎の横を通り、女川へ。

女川交番

押し寄せた津波をまともに受け、根こそぎ倒されてしまった交番をみた。津波の激しさ、恐ろしさをまざまざと見せている。

B型事業所きさら女川

引っ越したその日が3月11日で、被害を受け、再建したお店に行った。管理者の沼田さんから、被害のこと、製造している、かりんとう(20種類)や、わかめの佃煮、試食もさせていただきながら、お話を伺った。その後、加工場の見学、エコネットみなまた はたらくの仕事作りのヒントもいただいた。

女川原発のこと

2011年3月、福島原発が爆発した。その時私は、自分たちがやってきた反原発運動の至らなさに落胆し、未来はもうないのだという思いを持った。1976年、私は郵便局に採用されたが、その地は川内原発建設反対運動の真只中だった。当時、反対する母親グループの前田トミさんは、「環太平洋地震帯の中の狭い列島日本、確実におおびたらしい核のゴミを生み残す原発の新増設はもう絶対におやめください。地球の未来のためにぜひぜひお願いします。」と訴えていた。福島事故が起きる40年も前のこと。

一時落胆したものの、その後私は、原発避難計画を考える水俣の会や、原発ゼロを目指す水俣の会で活動を再開し、川内原発再稼働反対運動に取り組んだ。原発であれだけの過酷事故が起きたのだから、もう原発なしで暮らせる社会の到来だ！と期待していたが、水俣から40^{キロ}の川内原発は、再稼働1号となった。原発利権に群がる「原子力村」は健在で、最近ではより一層活発な動きをするようになった。その流れの中で、宮城県知事は、女川原発にゴーサインを出した。

私は、女川現地で、ずっと反対運動を続けてきた町議の阿部美紀子さんにどうしても会い、遠く水俣でも女川原発に反対しているよというエールを送りたかった。それに阿部さんは、毎年水俣の甘夏ミカンなどを共同購入してくれている。今回、その願いは叶った。原発を間近に見ることはできなかったが、女川という地は、水俣のような辺鄙な場所にあった。また、水俣病事件では、命より経済が優先されたが、女川では、原発の被害よりも「電力の安定供給」が大事にされるということを肌で感じた。女川の苦悩を垣間

見た。町は復興途上であるが、原発は確実に復活の道を進んでいる。
原発は人類と共存できないという当たり前のことを、これから先も意思表示しよう、女川
に行って再度思った。スリーマイル島、チェルノブイリや福島、そしてこれまで日本各地
で起きた重大事故を忘れない、なかったことにさせないために、声を上げ続けようと思う。

夜は、飯島さん、NPO 法人桑の木金の澤さん、加茂さんや、滋賀、大阪の県外組で
小規模の懇親会、宮城のうまい酒をいただいた。

2021年1月24日

震災遺構 旧石巻市立大川小学校

津波によって児童74名、教職員10名が犠牲になった場所で、大川伝承の会、小さ
な命の意味を考える会、大川小学校児童遺族の紫桃隆洋さんの案内を受けた。

2011年3月11日14時46分、地震発生、その時刻、水俣にいた私たちは、環境修
学旅行生の案内をしていた。15時半に終了、東京からの高校生だったが、先生方には
大地震の一報が入り、お台場が火事などの情報が伝えられていた。大変な事態になっ
ているということがわかり、その後は報道されている通り。

そして、石巻市の大川小学校では、そのころ、津波到達(15時37分)までの時間、
避難方法を巡り議論がされていたという。地震の衝撃後の不安と恐怖の中で、津波が
来るので避難する判断が出たが、裏山に登るのではなく、川の近くの三角地帯に向か
って行進することとなった、上級生、下級生入り乱れて。結果的には死の行進となつた
避難と、そこで起きた阿鼻叫喚を想像するだけで胸が苦しかった。命のことをこれほど
身近に感じたことはなかった。小6の娘さんをなくされた紫桃さんに案内されて、裏山に
上ってみた。子どもでも充分登れた場所であるが故に、言いようのない口惜しさで唇を
かむ。避難ができたはずなのに！

津波の恐ろしさと、まさかがあるということへの想像力を持つことは容易ではない。しか
し、石巻市の多くの学校が「見えなくても、来ないと思っても」避難をした。「念のため」に
避難をするという、ギアの切り替えが、命を守るためにそのことが必要だと遺族たちは訴
えている

生き延びた人が、後悔の念にさいなまれることは想像に難くない。しかし。
冊子「小さな命の意味を考える」控訴審レポート 覚悟へのゴーサインから引用する。
「今回の裁判にあたり、教室で大川小のことを話してくださった先生が全国にたくさんい
ると聞きました。すべての教師は、大川小学校の校庭に立ったとき、寒空の下で大津
波警報の鳴り響く中、指示を待っていた子どもの姿を思い、なんらかの責任、後悔を感
じています。そして覚悟を持ちます。高裁の判決は、その覚悟へのゴーサインだと思っ
ています。教師はたまたま居合わせた大人ではありません。教師は子供を守ることので

きる尊い職業です。学校が命輝く場所でありますように。」

残された人は、何をばねに伝承を続けることができるのか。あえてつらい思いを繰り返す場に自分を置くことは、さらに自分を追い込むことにならないのか。遺族は、あの出来事に、あの命たちに意味づけをしたいと考える。「悲しい」「かわいそう」「悲惨」だけではなく、願わくは、ほんの少しでも未来につながる意味づけをするために活動を続ける。

2月27日、宮城訪問から一か月以上がたち、そろそろ報告文を仕上げないと思っ
て書き終えようとしている。長く書けなかったのは、様々な思いが交錯しているから。特に大川小学校の出来事は簡単には書けない。いただいた冊子の中には、重い言葉がたくさんある。最後にそれを紹介しようと思う。ずっと忘れないために、命の意味づけをするために、自分への宿題とする。

「私の国では、3年前の大津波で、たくさんの命が、木の葉のように流されて消えました。病気とも戦争とも違います。何の前触れもない死です。」

「大川小学校の災害への備えや避難マニュアルも実体のない、杜撰なものであったことがわかっています。そして、保護者や子どもたちが避難を訴えていたにもかかわらず、50分間校庭で動くことはありませんでした。」

「子どもたちは逃げたくても先生の指示を待っていました。先生の一言で、全員が助かっていたでしょう。体験したことのない揺れの後、大津波警報が鳴り響いていたあの状況で「逃げろ！」となぜ強く言えなかったのか、私はいつも自問しています。」

訪問して3週間後の2月13日には福島県沖で大きな地震が起きた。訪れた場所が現場となった。まだまだ油断できないことが示された形だ。

荒浜小学校

荒浜地区は、仙台市中心部から東に約10km離れた太平洋沿岸部に位置し、海岸線に沿うように歴史ある運河・貞山堀が流れ、その周囲に約800世帯、2,200人の人々が暮らす集落があった。

荒浜小学校は、海岸から約700m内陸に位置し、震災当時は91人の児童が。東日本大震災では児童や教職員、住民ら320人が避難し、2階まで津波が押し寄せた。津波による犠牲を再び出さないため、その校舎を震災遺構として公開し、津波の脅威や教訓を後世に伝えている。

以上長くなりましたが、報告文を書きました。

「不安」をかきたてた原発川女

南新日本日

横倒しにされたままの鉄筋コンクリート2階建てが、津波のすさまじさを物語る。その津波で浸水した東北電力女川原発2号機は備えを強化し、再稼働について「2022年度以降」との目標を掲げる。現地を訪れた熊本県水俣市の永野隆文さん(66)は、都心から遠く、復興の成果も見えにくい沿岸被災地の悲哀を強く感じたという。

企業頼み 地方の悲哀感じ

「辺りな場所だ。水俣に似ている」。1月23日、牡鹿半島の付け根に位置する宮城県女川町の中心部に立った。町と石巻市にまたがる原発は、リアス式の入り江の向こうにある。

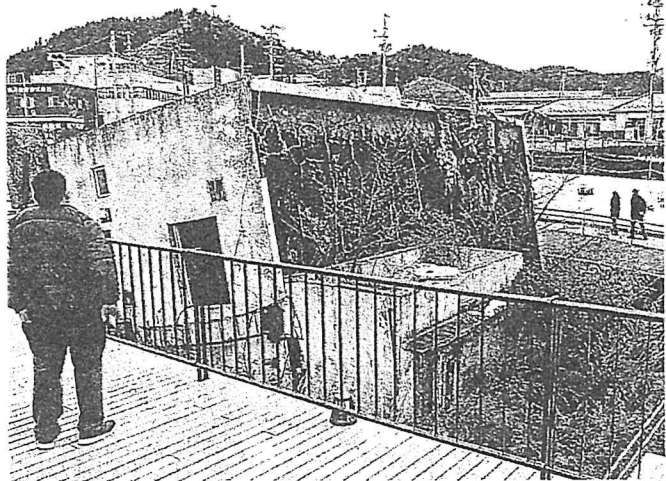
昨年11月、宮城県の村井



永野隆文さん

嘉浩知事は東日本大震災の被災原発として、初めて女川原発2号機の再稼働に同意。東京電力福島第1原発の事故によって「原発のない社会に変わる」と思っていただけに、にわかに信じられなかった。「現地を見たい」と、仙台市のNPO

永野さんの支援病水 訪問地現

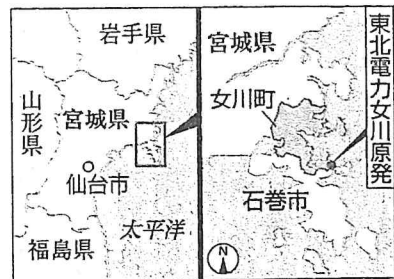


津波で倒壊し、震災遺構となっている旧女川交番
＝1月23日、宮城県女川町(永野さん撮影)

法人が企画した見学会に参加した。町が震災遺構として整備した旧交番

高さ14・8mの津波が押し寄せた女川の犠牲者は8

び、かさ上げした土地で商



東北電力女川原発

00人を超える。町が震災遺構として整備した旧交番の周囲には新築の家が並び、かさ上げした土地で商店街も再建したものの、空き地や整備中の護岸も少なくない。原発関係者が多く暮らす町。起きるかどうかわからない原発の事故よりも、目の前の暮らしへの「不安」の方が大きく、再稼働に表立って反対する声は小さかった。

鹿兒島県薩摩川内市の郵便局に入った1976年、九州電力川内原発の建設計画反対運動に加わった。水俣市に転動した80年代前半から、水俣病患者の支援にも携わる。

東日本大震災




(村田直隆)

～けんちゃんのつれづれ日記...その3～

((元コッパ職人の木村けんいち...です))

『コッパ時代の失敗談』

いろいろ失敗したけれど... まず思い出すのは
“クッキーほぼぜん滅”させてしまったこと...。 
午後のクッキー焼き... ネグロスクッキーを焼いて
いた(釜番...)... 責任者のIさんが出かけて
り帰ってきて、クッキーを見て“こげこげ”となり
生きのこったのは2～3枚であとは全部“こげ”
でした... ああー...。



あと... パン焼きの釜番のとき、朝一で
オーブンの電気スイッチを入れ忘れていて、
食パンが発酵棚(ホイロ)から出てきて
さあー、焼きくじ!!となった時、オーブンには火が
入ってはいないことに気づいて... ああー...!!



あと、千切パンを焼いたら、釜が出して
一枚だけ追加焼きして、そのまま忘れていて
たぶん、こげ臭いとなって... ああー...!!

いろいろ、やらかしました... トホホ...。

佐藤 みこ

私はコッペのパンが大好きです。

とくに好きなのがチーズパンとメロンパンです。

チーズパンはレンジで温めると、チーズがとろけておいしいからです。

メロンパンは上に乗っている砂糖がツルツルしておいしいからです。

お母さんが私の好きなパンを持って帰って来るとうれしくなります。

そのパンは学校の日や休みの日の朝に食べます。

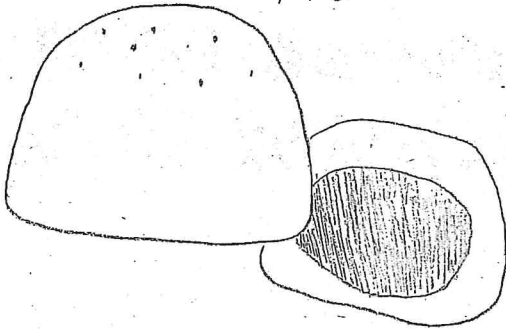
妹もメロンパンが好きなのでけんかになります。でもけっきょく半分こにして食べます。

妹はチーズスティックも大好きです。

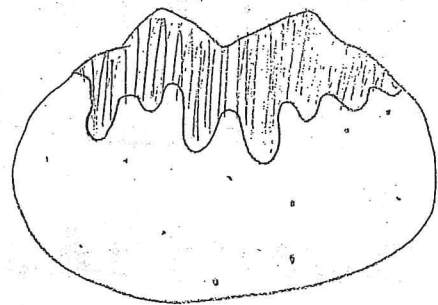
そして、チョコパンの顔を見て、「これたれが作ったの？」と必ずお父さん聞いています。

これからもコッペの美味しいパンを食べたいと思います。

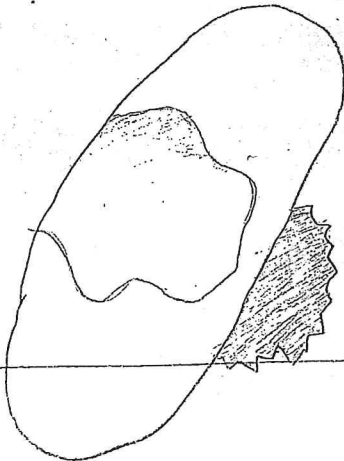
アンパン



チーズパン



チーズスティック



自己紹介

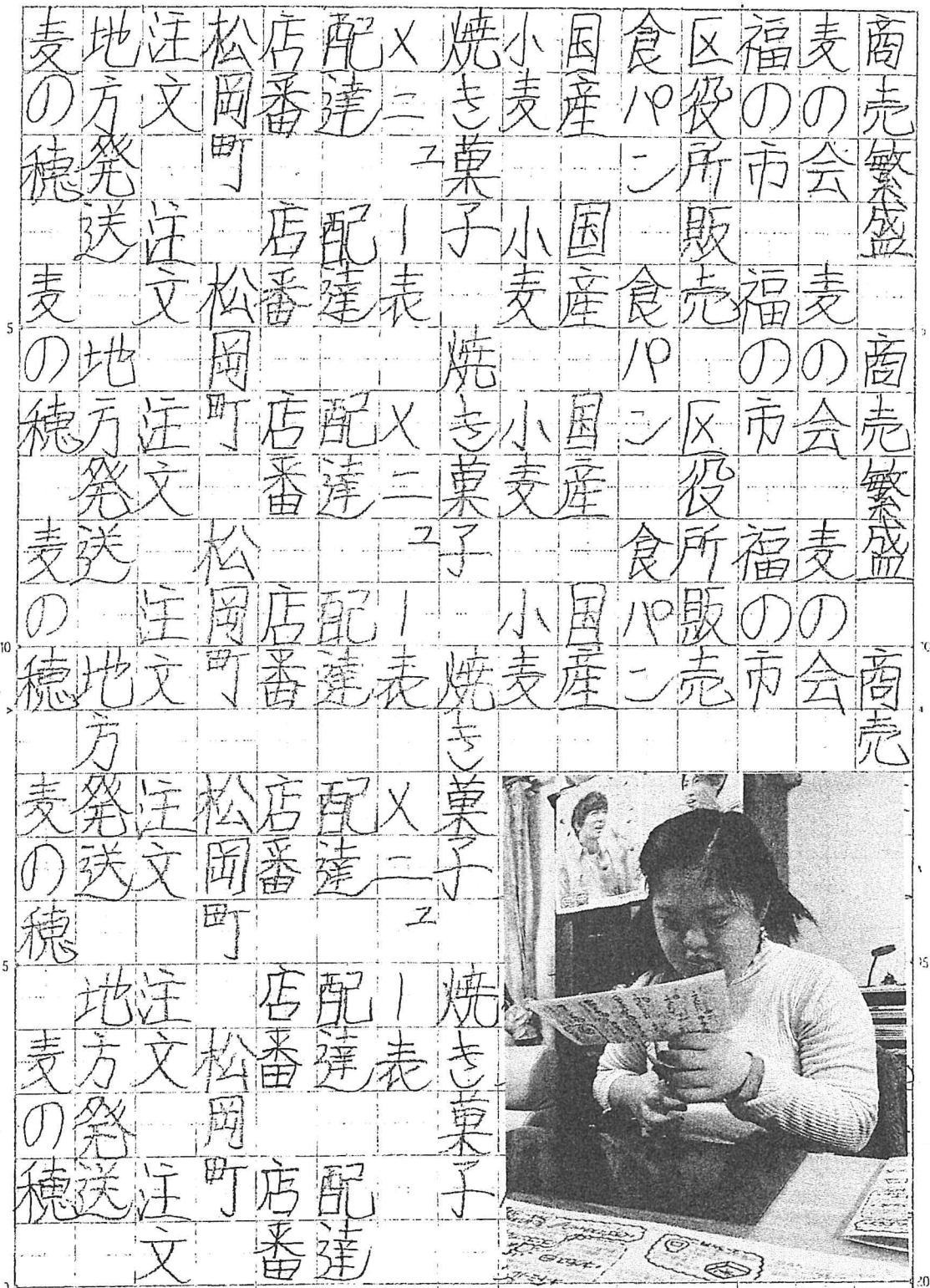


名前：^{さいとう}齋藤 ^{もとし}基
誕生日：6月7日 (ふたご座)
血液型：AB型
出身地：岩手県

好きなこと

- ◎ サッカー観戦 (バガルタ仙台・日本代表)
- ◎ 音楽ライブ鑑賞 (ライブハウス・ジャズフェス)
- ◎ ドライブ

コッパでの仕事は、今まで経験したことがない
作業が多いです。まだまだわからないことはあり
ますが、よろしく願います。



在宅での仕事が続いているあつこさんです。配達時に訪問したり、ライン通話したりしています。写真はクッキーのメニュー表の折り方。いろいろ漢字も勉強してます。

生活と家庭

いつまでも一緒に暮らして
います。これから大事にするのは
共に本当の家族になって
ほしいと心から強く思って
います。暮らしているのは
もっと考えてゆっくりと
命かけてきちんと守って
思っています。僕は
家族が一番暮らしているのは
とてもうれしいです。
生活もずっとできるように
やってこれからも皆で仲良く
したいです。

阿部央希

(家族になろうよ)